

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 20 日作成)

小委員会名	環境設備に関する学会規準 (A I J E S) における性能レベル小委員会		主 査 名 : 岡 達雄 就任年月 : 2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名 : 田辺 新一 主 査 名 : 郡 公子
設 置 期 間	2013 年 4 月 ~ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	1. 2013 年度 : 建物の設計データを性能評価に当てはめて、評価方法の妥当性を検討し、実用的な評価方法を検討する。 2. 2014 年度 : 設計資料を建物規模別に整備し、実用に供せられるようにする。建物の環境性能評価を可能にする計算体系を整備する。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無 : 無		
	岡建雄、後藤謙一 (後藤デザインシステムズ)、森川元樹 (森川設計)、相曾一浩 (矢崎エネルギーシステム)、石川幸雄 (三重大学)、伊藤宏之 (テクノビジョン)、落合弘文 (高砂熱学工業)、佐野邦彦 (建築環境・設備ネットオフィス)、時田繁 (公共建築協会)、中島康孝 (建築環境・設備技術情報センター)、福田全志 (カンキョウエンジニアリング)、米山浩一 (石本建築事務所)		
設置 WG (WG 名 : 目的)	ソーラー建築情報WG : ソーラー技術に関して実際の設計に役立てるために適正な判断基準を整える		
2013 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無 : 無 委員会 HP アドレス :	

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	シンポジウム 「中小事務所ビルを対象とした省エネルギー手法と運転費削減および設備費の算定」 参加者数 55 名 算定エクセルシート、使用マニュアル (メールにて配布)
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 建築設備に関する学会規準に従い性能レベルの検討を行った。(13年度) 70% 2. 建物を想定し、各項目の性能レベルの整合性を確認 (13年度) 70% 3. 性能レベルの項目を、環境性能に絞り、性能レベルを示した。(14年度) 80%
委員会活動の問題点・課題	1. 性能レベル検討の建物モデルを想定し検討、具体的数値化の難しさ。 2. 評価法を示したエクセルシートの活用、入力、結果の表現法の工夫 3. 実用に供されるための検証が必要で、信頼向上が必要である。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2014 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>1. 本委員会では、環境設備に関する学会規準（A I J E S）に従い性能レベルの評価基準、総合評価のため、2000 m²程度の事務所ビルの建物のモデルを想定し、性能評価項目を具体的数値で表す予定で進めていたが、中小ビルに限った場合でも、各委員（設計者）が、数値の取り方がさまざま、数値に表わせない難しい評価項目もあり、総合評価は、次期の課題に残す結果となった。 (2013年度) (達成度 70%) B</p> <p>2. 本委員会の、学会規準の性能レベルの必要性を見直し、既存環境評価性能ソフトの研究、実際に行われている、設計業務、建築企画の段階で実態に合い、必要として使用できる、性能評価基準を示し、実際の設計に使用されるツールとして、示し、一部の性能レベルの項目から、施主、および建築関係者に関心の高い性能評価を対象に、評価する評価項目を検討した。 (2013-2014年度) (達成度 80%) B</p> <p>3. 上記2.に基づき、性能評価ソフトの作成を行った。(エクセルシート) 1) 評価項目は、経済性能の視点で、省エネルギー性能、省エネルギーコストを示し、設計企画時、省エネルギーに関するコストの比較ができるソフトを目標とした。 2) 建築企画時に、使用できるように、土地の地番、敷地面積、用途地域が、判れば、省エネルギーコストが出てくるようなものを目指す。 3) 2000 m²程度の建物が対象であるため、地域に合わせたソフトの改変、コストに関する数値を出すためタイムリーなデータの入れ替えなどが、簡単にできるよう、エクセルシート1シートを目指す。 上記により、ソフトを作成し(SHEEP-1)として、シンポジウム時に発表し、配布した。 1) 2) 3) のコンセプトに従い作成したが、今後、ソフトの検証 使いやすさ(入力、出力とも)の反省点もあるが完成した。 (2014年度) (達成度 90%) A 上記により、本小委員会活動の2013-2014年度の活動は、達成度90%とした。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。